

指導資料

地理歴史・公民 第14号



鹿児島県総合教育センター
平成28年4月発行

対象
校種

幼稚園 小学校 中学校

高等学校

特別支援学校

言語活動の充実を図る世界史Bの学習指導の工夫 — 単元を貫く基軸となる問いの設定を通して —

生徒の歴史的思考力の育成を目指す世界史Bの学習指導の工夫について、単元を貫く基軸となる問いの設定、資料を活用した言語活動の充実という観点から具体的な授業例を紹介する。

1 言語活動の充実を図る必要性

知識基盤社会化は、グローバル化を進展させ、知識や技術は常に変化している。このような社会では、知識だけではなく、旧来のパラダイムからの転換が求められるため、柔軟な思考力が必要である。世界史Bの学習においても、知識の習得のみならず、知識を活用させ、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する実践が必要であり、科目の目標（資料1）の下線部で示すように、歴史的思考力の育成とともに、それを生徒自身が主体的に国際社会の形成に生かしていくことが求められている。

資料1 世界史Bの科目の目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

(高等学校学習指導要領解説 地理歴史編 p.29から)

では、歴史的思考力を育成するにはどのような実践をすればよいのであろうか。歴史的思考力は、課題を設定した上で、資料等を活用し、歴史的事象の関係を多面的・多角的に考察していくことによって培われる力であるため、その育成には言語活動の充実を図ることが必要である。

その手立てとして、本稿では単元を貫く基軸となる問い（以下、「基軸となる問い」という。）の設定を試みた。この設定は、知識の習得に陥りがちな学習から知識を活用する学習への転換を図るものであり、生徒が歴史的事象に対する思考を促す機能がある。

2 世界史Bにおける言語活動の充実を図る意義とその観点

言語活動の充実を図る授業の意義について、資料を活用した学習活動と「基軸となる問い」の設定という二つの観点から述べる。

まず、資料を基にした言語活動の充実については、高等学校学習指導要領解説（資料2）においてその重要性が述べられている。

資料2 世界史B(4) 諸地域世界の結合と変容の内容オ

(4) 諸地域世界の結合と変容
オ 資料からよみとく歴史の世界
主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。
(高等学校学習指導要領解説 地理歴史編 p.42から)

そこで、社会・地理歴史・公民科においては、表1に示す言語活動の充実を図りたい。このような言語活動の充実を図ることで、生徒自らの歴史像の形成を促し、主体的に歴史を捉えようとする態度の育成が期待できる。

表1 社会・地理歴史・公民科における主な言語活動

読み取り	社会的事象に関する事実を調査・見学や地図、統計など各種の資料等を基に読み取る活動
解釈	社会的事象のもつ特色や意味、意義について各種の資料等を基に考察する活動
説明	社会的事象の特色や事象間の関連を各種の資料等を基に考察し、表現する活動
論述	社会的事象について、各種の資料等を根拠に自分なりの考えを表現する活動

《『総合教育センター研究紀要第115号』から作成》

次に、「基軸となる問い」については、資料3に示すように、単元全体を総括する「問い」であり、生徒が関心・意欲をもち、常に思考力を働かせて、他の学習内容と関連付けられるような魅力的な問いでなければならない。

資料3 「基軸となる問い」の視点

- ① 歴史的事象の理解を深める核となる学習内容をもっている。
- ② 深い思考や新しい理解を促し、考察が持続する。
- ③ 特定の時代や地域を越えた比較や関連付けが可能である。
(『中等教育資料①』平成26年1月号p.60から)

また、1単位時間の学習内容と関連している問いでもなければならない。図は、単元「ラテンアメリカの独立とアメリカ合衆国の発展」における「基軸となる問い」と1単位時間の学習内容との関連を示したものである。図に示すような「基軸となる問い」を設定し、第3時にリンカンの奴隷制度に対する見方に関する資料を活用した学習活動を取り入れることによって、1単位時間の学習内容が結び付けられ、この時代の両大陸の歴史を大観させることができる。

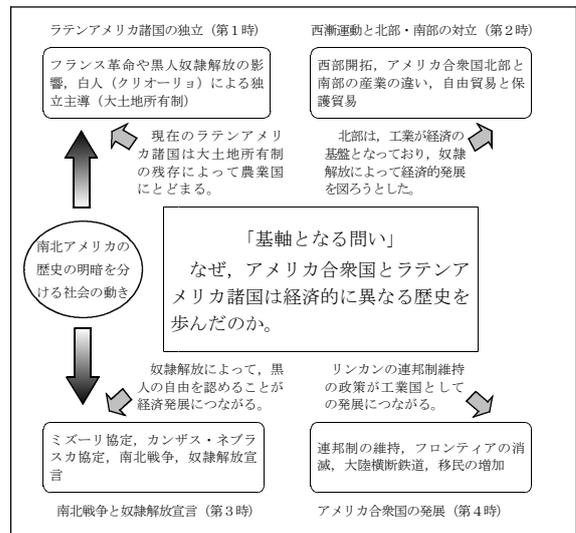


図 「基軸となる問い」と1単位時間の学習内容との関連

このように、資料を活用した学習活動と「基軸となる問い」を設定した学習指導は、言語活動の充実を図る授業につながり、生徒に主体的な学習を喚起するとともに、生徒の歴史的思考力を育成するといった意義を見いだすことができる。

3 「基軸となる問い」を設定した単元の評価 規準及び指導計画の作成

「ラテンアメリカ諸国の独立とアメリカ合衆国の発展」における「基軸となる問い」、評価規準及び指導計画を作成した例を示す(表2)。「基軸となる問い」は、「なぜ、アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国は経済的に異なる歴史を歩んだのか。」と設定した。第3時では、南北戦争や奴隷解放宣言を経て、工業国へと発展していく過程について課題解決的に、リンカンの奴隷制度反対に関

する様々な資料を活用した言語活動を取り入れ、アメリカ合衆国の発展した理由について思考・判断・表現させ、追究する展開を設定している。

この「リンカンの奴隷制度に対する考え方」は、前ページ図で示したように「基軸となる問い」を通して、第1～2時、第4時に関連があり、南北アメリカ大陸の経済的な発展において明暗が分かれる重要な概念となる。そこで「リンカンの奴隷制度に対する考え方」を基にして、課題解決まで導くような指導計画を設定した。

表2 「基軸となる問い」、評価規準及び指導計画

<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元名 アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカ諸国の独立 ・ 基軸となる問い 「なぜ、アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国は経済的に異なる歴史を歩んだのか。」 ・ 単元の評価規準 							
	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解			
	アメリカ合衆国がなぜ、先進国として世界の中心的な存在となったのかについて、奴隷制度反対の理由を視点として、意欲的に追究しようとしている。	リンカンの奴隷制度に関する様々な見解を示す資料を基にして、アメリカ合衆国の発展を捉え、南北アメリカの歴史について、多面的・多角的に考察している。	リンカンの奴隷制度に関する資料から有用な情報を読み取り、アメリカ合衆国の発展を捉える際の判断材料として役立てている。	先進国となったアメリカ合衆国と発展途上国の多いラテンアメリカ諸国の歴史的な過程について、基本的知識を身に付けている。			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の指導計画(4時間) 							
時程	学習内容	学習活動	評価の観点				評価規準等
			関	思	技	知	
第1時	ラテンアメリカ諸国の独立	<p>【学習課題】ラテンアメリカ諸国では、どのような人々が独立を主導したのか。</p> <p>ラテンアメリカの独立の背景にはどのような特徴があったのか、アメリカ合衆国の発展と比べて、どのような違いがあったのかについて興味・関心をもつ。</p>	○				ラテンアメリカ諸国は奴隷解放運動の影響を受けたものの、主に白人が独立を主導したことを理解し、アメリカ合衆国とは経済的に異なる歴史を歩んだことに気付く。
第2時	西漸運動と北部・南部の対立	<p>【学習課題】アメリカ合衆国の領土拡大は、社会にどのような影響を与えたか。</p> <p>ジャクソンの民主政治の基盤を拡大させる政策、西漸運動、連邦派と反連邦派、北部・南部の対立、ゴールドラッシュによる移民の流入などについて理解する。</p>			○		西漸運動によって領土が拡大することに伴い、北部と南部の対立がアメリカ合衆国の奴隷制度をめぐる対立となっていくことを理解している。
第3時	南北戦争と奴隷解放宣言	<p>【学習課題】リンカンは、なぜ奴隷制度に反対したのか。</p> <p>奴隷制度が南北戦争の原因となる中で、リンカンが、奴隷制度になぜ反対したのか、その理由について資料を基に言語活動(読み取り、解釈、説明)を行う。</p>		○	○		リンカンが奴隷制度をどのように捉えたかについて、資料を基に考察し、他者の意見を踏まえた上で、自身の意見として説明している。
第4時	アメリカ合衆国の発展	<p>【学習課題】なぜ、アメリカ合衆国は工業国になったのか。</p> <p>リンカンのアメリカ合衆国分裂を阻止した政治的判断が、アメリカ合衆国の発展をもたらし、現在の先進国としての基盤が築かれたことを理解する。</p>		○		○	連邦制の維持によって、北部・南部・西部の地理的特徴を生かすことができ、大陸横断鉄道で結ばれ世界一の工業国となったことを理解し、「基軸となる問い」について考察し、説明・論述している。
<p>(課題解決の表現例) アメリカ合衆国は、リンカンが奴隷解放を行うことで民主的な社会が形成される中、連邦制を維持することで国力が分裂せず、北部・南部・西部の資源を生かして経済が発展し、先進国となった。一方、ラテンアメリカ諸国は、植民地において白人が独立を主導したため、封建的な大地主制度が残る農業国となり、工業化は進まなかった。</p>							

4 授業展開例

表3 第3時 「南北戦争と奴隷解放宣言」 授業例

過程	時間	学習活動	形態	指導上の留意点
導入	10分	【学習課題】 リンカンは、なぜ奴隷制度に反対したのか。	個別	アメリカ合衆国の西漸運動、南部と北部の産業などに本時の学習に関連する学習内容について復習させ、知識を活用するよう促す。奴隷州、自由州、ミズーリ協定など資料を読み解くために必要な知識を説明する。
展開	30分	各資料からリンカンが、なぜ奴隷制度に反対していたのかをグループでまとめる。(読み取り)(解釈) 資料A(第一次大統領就任演説*1) 資料B(奴隷解放最後布告*2) 資料C(共和党の時代*3) (各グループの発表) 各グループの発表を聞き、リンカンが奴隷制度に反対していた理由について、グループで話合った内容と比較したり、自分なりの考えをまとめたりする。(説明)	グループ グループ 個別	リンカンが奴隷制度に反対していた理由を読み取れる部分を基に、各グループの意見をまとめるように指示する。 資料の説明としては、資料Aが実際にリンカンが演説した内容の翻訳、資料Bがリンカンの発した布告、資料Cが奴隷制度と経済社会との関係を分析したものであることを述べる。 資料A～Cは、それぞれ奴隷制度について異なる見方(人道的・政治的・経済的な見方)をしている点に気付かせる。生徒自身がどの見方を重視して、反対の理由にするかは生徒の意思を尊重し、特に正解を求めないことを強調する。
終末	10分	【課題解決例】 リンカンが、奴隷制度に反対した理由は人道主義的な見方だけでなく、連邦制の崩壊を防ぐ政治的な見方や、アメリカ合衆国の経済的な発展を実現する見方があったからである。	個別	リンカンが奴隷制度をどのように捉えたかについては、一つの見方からだけではなく、様々な見方が複雑に絡み合っていたことを述べ、奴隷解放がアメリカ合衆国の発展の基盤となっている点に触れる。 様々な資料を基にして歴史的事象を考察することの面白さや自分なりに歴史を捉えることの楽しさを伝える。

表3に、本指導計画における第3時の授業展開例を示す。

導入では、課題解決に必要な知識を補い、第1時～第2時において習得した知識の活用を促し、学習課題の解決に向けて意欲をもたせるようにした。

展開では、リンカンの奴隷制度に対して複数の見方から考察できる資料を提示した。資料Aでは「人間の平等(人道的な見方)」、資料Bでは「連邦制の崩壊の阻止(政治的な見方)」、資料Cでは「共和党の支持基盤であった北部の経済と奴隷制度との関係(経済的な見方)」について読み取らせることを狙った。これらの資料を基に、展開前半に「読み取り」と「解釈」、後半に「説明」の言語活動を位置付けた。生徒は、三つの資料を相互に関連付けて話し合い、リンカンが奴隷制度に反対した理由を考察した。その後、各グループの意見を聞き、最終的に自分の意見を文章でまとめさせた。

終末では、学習課題に対する解答例に当たる「課題解決例」を、教師側から提示したが、生徒が発表した表現例も尊重しながらまとめることで、資料を基に歴史的事象を考察する楽しさを実現させることができた。

このように、「基軸となる問い」を設定したり、複数の資料を活用したりする学習指導は、生徒の歴史的思考力の育成や歴史への関心・意欲の高揚にもつながる。年間或いは単元の指導計画を立てる際には、こうした学習指導の工夫を通して更なる授業改善に努めたい。

—引用・参考文献—

- 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』平成22年
- 学事出版 『中等教育資料①』平成26年
- 高木八尺、斎藤 光(翻訳)『リンカーン演説集』昭和32年、岩波文庫
- 松尾 弑之著 『共和党と民主党—二大政党制のダイナミズム—』平成7年、講談社現代新書
- 福井憲彦、田尻信壹著『歴史的思考力を伸ばす 世界史授業デザイン 思考力・判断力・表現力の育て方』平成24年、明治図書

(教科教育研修課)

*1 「リンカーン演説集」(岩波文庫) pp. 103～107の一部抜粋
*2 「リンカーン演説集」(岩波文庫) pp. 140～142の一部抜粋
*3 「共和党と民主党」(講談社現代新書) pp. 119 2行目～121 13行目